



大海原を望み、
未来を描く

桂浜の一角は「桂浜公園」として整備され、多くの見どころがある。「桂浜水族館」もそのひとつで、地元の魚や生き物と触れ合える場所として長年親しまれている。

砂浜を歩いていると、波打ち際にカラフルな丸い小石が多く打ち上げられていることに気づく。これらは「五色石」と呼ばれ、主に仁淀川から流れてきたもの。仁淀川上流域は何億年も前に形成され、年代も成り立ちも様々。地層の違いから異なる色や種類の地質を削り取りながら、長い旅路を経て、桂浜に辿り着いたのである。以前は、五色石が土産物として販売され、遠足や旅行で拾って持ち帰るブームがあったというから、五色石に懐かしさを感じる方もいるかもしれない。

紺碧の海と、背後に広がる松の緑が見事に調和する、風光明媚な桂浜。「月の名所は桂浜」と「よさこい節」にも唄われる、高知を代表する景勝地である。浜の南端にある龍王岬には海津見神社があり、さらに一段高い場所には早高神社が建つ。どちらも桂浜の美しい弧を見渡せるスポットで、眼下の岩に打ち寄せる迫力ある波も見どころだ。

高知県高知市

自然と
歴史に触れる
桂浜散策

早高神社



五色石



海津見神社



坂本龍馬像は皇居の方角を向いて建てられている。

館内にはウミガメやペンギン、トド、アシカなど様々な生き物が元気に動き、独特な展示方法や手描きのユニークなポップなどが訪れる人々を楽しませる。エサやり体験では、動物たちが上げる水しぶきを感じるほどの近距離。規模は小さいながらも、アットホームで温かみがあり、飼育員の愛情をたつぷりと感じられる魅力的なスポットだ。

浜の東端、龍頭岬では、袴姿にブーツを履き、手を懐に入れた坂本龍馬の銅像が太平洋をまっすぐに見つめている。

この龍馬像は、高さが五・三m、台座を含めた総高は約十三・五m。台座の裏には「建設者 高知県青年」と刻まれており、県や市の事業ではないことがうかがえる。

龍馬像建立の発端は、大正末期、早稲田大学の学生だった入交好保ら高知県出身の四人の大学生が、当時まだ知名度の低かった龍馬の存在を世に広めるために行動を起こしたことにある。入交は、アメリカの自由の女神のように太平洋を眺める形で龍馬像を建てたいと考え、桂浜の地を選んだそうだ。

学生らが中心となり、募金運動を全国に展開、彼らの熱い想いは「土佐の交通王」と呼ばれた野村茂久馬や、元宮内大臣の田中光顕らを動かし、建立に必要な資金を集めた。

銅像を制作したのは宿毛市出身の本山白雲。皇居前の楠木正成像や上野公園の西郷隆盛像の制作にも関わった肖像

雄大な太平洋に面した桂浜。遊歩道や休憩所も整備されている。



龍馬像の脇に櫓を組んで龍馬の目線から太平洋を望む「龍馬に大接近」も行われている。

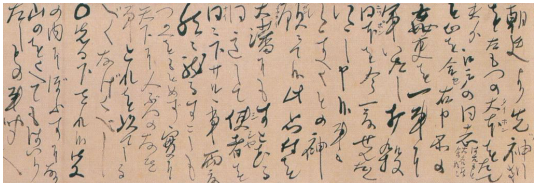


彫刻の大家である。昭和三年、悲願の銅像建立が実現した。完成除幕式の当日は、海軍省派遣の駆逐艦「浜風」が参列して祝意を表し、銅像の足下には、地元四十四連隊・中島中尉指揮下の兵士たちの姿もあった。式典は参列者五百人にものぼる盛大なものだった。

銅像は、勤王の至誠を表して皇居の方向を向いて建てられているそう。戦時中、多くの銅像が金属供出により撤去されるなか、この像は供出を免れ、坂本龍馬は同じ場所で二世紀近く太平洋を見つめている。

ちなみに、毎年、春と秋に、龍馬像の横に展望台が特設され、龍馬と同じ目線で太平洋を眺めることができる「龍馬に大接近」というイベントが開催されている。銅像は、下から見上げられることを前提に顔が少し大きめに作られているらしく、龍馬像の横に立つと、少し違った印象に見えるのが面白い。機会があればぜひ訪れてみてほしい。

桂浜には「県立坂本龍馬記念館」もあり、龍馬に関する多くの資料が展示されている。有名なフレーズ「日本を今一度せんたくいたし申候」と書かれた姉の乙女宛ての手紙や、龍馬が朱筆で書いた薩長同盟書き、暗殺された近江屋の部屋に残された血痕のついた掛け軸と屏風など(いずれも複製)、貴重な展示品は見応えたっぷり。特に自筆の手紙には若き日の熱意や悩みが綴られており、現代にも通じるメッセージを感じ取ることができる。



坂本龍馬書簡 文久3(1863)年6月29日 姉 乙女宛(複製)
通称「せんたくの手紙」。「日本(ニッポン)を今一度せんたくいたし申候事二いたすべく…」という有名なフレーズは、龍馬の認識が既に日本全体にあることを明確に表している。このあと、出家を願望する乙女を、得意のユーモアでからかっている。

真物は京都国立博物館所蔵(国重要文化財指定)

幕末に活躍し、日本の近代化に貢献した坂本龍馬は、今も多くの人々に敬愛される存在だ。龍馬に惹かれる人が多いのは、彼の未来を切り拓く力と情熱、強い信念や自由な生き方が、時代を超えて私たちに自分らしく生きる勇気を与えてくれるからに他ならない。そう考えると、龍馬の功績を後世に残そうと奮闘した入交好保をはじめとする若者たちに、深い感謝と敬意を捧げずにはいられない。

「我が成す事は我のみぞ知る」―龍馬の思いが現代に生きる私たちに問いかけるように、この地を訪れることで、自身の夢や挑戦について考える機会を得られる人は多いだろう。坂本龍馬が見つめた大海原には、今を生きる私たちが次世代へと受け継いでいくべき夢と志が宿っている。

高知県立坂本龍馬記念館

新館と本館の2つの施設があり、新館の常設展示室には坂本龍馬が書いた手紙や、所持していたピストルと同型の実物など、龍馬に関する貴重な資料が展示。本館は、映像や音声を用いた体験型の展示で、龍馬や幕末史を楽しみながら学べる内容になっている。海に向かって突き出ようようなガラス張りの建物特徴。屋上からは水平線まで見渡せる素晴らしいオーシャンビューを楽しめる。

高知県高知市浦戸城山830 TEL 088-841-0001
開館時間/9:00~17:00(最終入館 16:30)・年中無休
料金/企画展開催時 大人(18歳以上)700円、
その他期間大人(18歳以上)500円、
高校生以下無料
駐車場/有(無料)



お立ち寄りSPOT

桂浜水族館

アットホームな雰囲気、ユニークな演出に魅了される水族館。大人も子どもも遊びながら学べる。

高知県高知市浦戸778(桂浜公園内) TEL 088-841-2437
営業時間/9:00~17:00(チケット最終16:30)・不定休
大人1,600円・小中学生600円・幼児(3才以上)400円
駐車場/高知市宮桂浜公園駐車場(有料)をご利用ください。



桂浜 海のテラス

桂浜公園の商業エリアに新しくオープンした複合施設。レストランやカフェ、土産物店など13の施設で構成されている。高知グルメやお土産が勢ぞろいするほか、桂浜の歴史を学ぶミュージアムも。解放感たっぷりのテラスでゆったり過ごすのもおすすめ。

グルメ

海のテラスでは、土佐ならではの新鮮で豪快な海の幸を堪能できる



魚貝ラーメン
はちきん地鶏バーガー
炭焼きカツオタタキ丼

おみやげ

土佐の恵みを活かした
おいしい商品がいっぱい!



龍馬のブーツ
こんがりサブレ
塩バタードーナツ
桂浜の
五色石ちよこ
ワイン桂月
塩サイダー
真っ赤なトマトの
パスタソース
塩けんぴ



桂浜までの交通【自動車】
高知ICから 約40分
松山ICから 松山自動車道→高知自動車道経由…約3時間
徳島ICから 徳島自動車道→高知自動車道経由…約3時間15分
高松中央ICから 高松自動車道→高知自動車道経由…約2時間40分

